

## 平成25年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立外町小学校		
2 所在地	唐津市東町37番地		
3 校長名	一色 健治		
4 学級数	18学級	5 実施学年	3年
児童生徒数	468人	児童生徒数	74人

### 6 取組のねらい

外町小学校では学校の教育目標「今日も来てよかった外町小学校」の実現のために、温かい人間関係を育む取り組みを行っている。その取り組みの一つとして、『優しい雰囲気づくりのために、優しい言葉遣いのできる子になる』ことをめざしている。そして、優しい言葉遣いは優しい心遣いから生まれることから、「福祉体験講座」（車いす、セラピューティック、点字、盲導犬）を通して、「優しい心」を育てていくことをねらいとした。

### 7 取組の実際

#### (1) 「車いす体験」

##### ・活動内容

9月に、唐津市社会福祉協議会より講師を招聘し、車いす体験を行った。

##### ・学習の実際

車いすについては、1学期に、車いすを実際に利用し生活している本校6年生児童より話を聞く機会を設け、事前に学習を行った。

当日の活動内容としては、車いすの特性や気をつけなければいけないことなどについて、車いすに乗って「ジグザグに進む」、「細い通りを進む」、「マットで作った段差を上る」、「後ろ向きに段差を降りる」等の体験を通して、児童の理解を深めさせた。

##### ・活動の様子



- 活動のまとめ  
児童の感想より

段差を一人でのぼるのは難しいです。こんな時はお手伝いをしてくれる人がいるとありがたいと思いました。後ろ向きはちょっと怖いです。手伝ってくれる人が気をつけてくれないとドスンと落ちてしまってヒヤッとします。手伝う方も気をつけなくてはならないと思いました。

児童にとって、車いすは普段から目にする機会が多いが、今回の活動を通して、大変さや気をつけるべきことを考える貴重な時間となった。

3年生は総合的な学習の時間で「福祉」領域の学習を行っているが、その中で『UD（誰にでもやさしく）』を合い言葉に学習を進めている。また論語の「恕の心（相手の立場に立って物事を考える）」にも触れながら、「優しい心遣い」について考えさせる場をもっている。

## (2)「セラピューティックの授業」

- 活動内容

10月の祖父母参観に合わせて、福岡県の日本セラピューティック・ケア協会及び唐津市社会福祉協議会より講師を招聘し、セラピューティック体験講座を行った。

- 学習の実際

机を取り除きいすを並べた教室で、参観の祖父母や保護者の方と児童とがラウンドに座り、講師の指導の下、柔らかな雰囲気のあるBGMとともにセラピューティック体験をした。

- 活動の様子



- 活動のまとめ  
児童の感想より

「ありがとうと言われてうれしかった。」  
「大人の人の中は大きくてやりやすかった。」  
「気持ちよかったと言われてうれしかった。」  
「喜んでもらえてうれしかった。」

体験中の祖父母・保護者の方も児童も、穏やかで優しい表情が見られた。最初は恥ずかしそうにする児童も見られたが、まわりの雰囲気から自然に肩や背中に手を当てていた。

日ごろ友だち間のトラブルや自己中心的な言動が見られる児童であるが、こういう活動を通して、優しい雰囲気を数多く体験させることで、「優しい心遣い」につながるであろうと考える。

### (3) 「点字の授業」

- 活動内容

10月、点字指導の方と唐津市社会福祉協議会より講師を招聘し、点字の体験学習を行った。

- 学習の実際

本校では、昨年度、一学級児童が使用できる人数分の点字板を整備しており、児童は一人ずつ点字板を使いながら指導を受け、多くの体験を積むことができた。

- 活動の様子



- 活動のまとめ

初めての点字体験で、最初は手間取っていたが、点字板に慣れるとどんどん点字を打てる子が出てきた。自分の名前から始まり、家族の名前、友だちの名

前、外町小学校、数字などいろいろと挑戦することで、児童の意欲も最後まで持続していた。この体験を通して子ども達から「点字はなぜ右から打つの？」や「目の不自由な方はこの点字をどのくらいの速さで読むんだろう？」などの疑問を持つことができていた。

この体験の後、児童には次の言葉をもとに指導を行った。

「口」は人をはげます言葉や感謝の言葉を使うために使おう

「耳」は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

「目」は人のよいところを見るために使おう

「手足」は、人を助けるために使おう

「心」は、人の痛みがわかるために使おう

『命の授業』（腰塚勇人著）より

福祉の授業の目的は「優しい心を育てる」ことである。学んだことを行動にうつせるようにしていきたい。

#### (4) 「盲導犬の授業」

##### ・ 活動内容

11月に盲導犬と一緒に生活されている視覚障がい者の方においでいただき、盲導犬に関わるお話や注意点などについてお話をいただいた。

##### ・ 学習の実際

初めに「盲導犬の育成」についてのDVDを見て、その後視覚障がい者の方と盲導犬の生活についてお話を聞いた。さらに視覚障がい者の方のドラム演奏を聴き、健常者と変わらずできる部分とそのための努力について理解を深めた。

##### ・ 活動の様子



## ・活動のまとめ

児童は、盲導犬について知識として知ってはいたが、実際のお話やふれ合いを通して、改めて学ぶことが多かった。

- 盲導犬は、ハーネスをつけているときは目の不自由な方を守ります。人間の目の代わりですから本当に忠実です。がまん強く主人のために仕事をします。そのための厳しい訓練をします。盲導犬として育てられても盲導犬になれない犬が多いそうです。
- 忠実に働く盲導犬も、ハーネスを外すとかわいいペットに変身します。「リラックスと集中」、「静と動」をしっかりとわきまえられるように成長するには、きちんとした躰が必要だと改めてわかりました。
- 目が不自由なのにとっても上手にドラムを演奏されます。視覚障がいというハンディキャップを克服するには、大変な努力が必要だと感じました。

活動の最後には、実際に盲導犬にふれ合わせていただいた。初めは座っていた盲導犬も、途中からお腹を上にしてリラックスしていた。子ども達に安心してさわられていた様子が伝わってきた。

## 8 取組の成果と課題

3年生の「総合的な学習の時間」のテーマは「優しい心を育てる」ことである。学習を通して、これからの学校生活を通して、優しい心とはなにかを考え、児童とともに育てていきたいと考えている。

福祉の学習については、車いすで生活している上級生へのインタビューから取り組みを始めた。3年生の児童は、それまでは車いすで学校へ来ているお兄さんという意識だけであったが、車いすのことや学校や家庭での生活の様子を知り、関心を高めることができるようになった。

「車いす体験」「点字の授業」「盲導犬の授業」を通して、体の不自由な方やその方を手助けする方々の存在や思いを知るきっかけとなった。また「セラピューティックの授業」では、障がいの有無にかかわらず、誰にでも優しい心で接することの大切さを学ぶことができた。

また、これらの体験をまとめ発表する活動の中で、児童は福祉やUDについての本を読んだり、福祉体験では学習しなかった指文字や手話の歌を練習したりと積極的に活動することができた。

今後は、福祉の面だけではなく、家庭での親子関係や学校・学級の友だちとの関わりの中で、今回学んだ「優しい心」を発揮することの大切さを学び、行動できるように学習を深めていきたい。

